

健康都市の市民医療施設における 高齢者交通環境についての考察

井ノ口 弘昭¹・秋山 孝正²

¹関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 (〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)
E-mail:hiroaki@inokuchi.jp

²関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 (〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)
E-mail:akiyama@kansai-u.ac.jp

健康増進行動を日常の生活面で支える社会基盤整備として、健康都市づくりが進められている。本研究では、健康都市における市民の日常的健康を支援する市民医療施設に着目して、とくに医療施設に来院する高齢者の交通環境に関する基礎的な考察を行う。具体的には、大阪府北摂地域の北大阪健康医療都市プロジェクト（健都）における市民病院の移転に着目する。すなわち、市民に対する医療施設環境の変化について、基礎的な分析を行う。さらに、新設された市民病院における来訪者（高齢者）に聞き取り調査を行う。この結果、新設された市民病院についての交通行動変化・医療サービス変化に基づく交通行動変化を把握する。さらに、従来の市民病院と新設された市民病院の交通環境の変化を相対的に比較する。これらることより、健康都市における交通環境変化に基づく高齢者の交通行動変化のパターンについて明確化する。最終的に、新設された市民病院における健康医療的サービスの構造変化が整理される。

Key Words : healthy city, hospital, elderly people, transport environment

1. はじめに

わが国は超高齢社会となっており、今後も高齢化が進展すると予測されている。この超高齢社会に対応するために、各自治体では健康に暮らす環境を整える健康まちづくりが進められつつある¹。本研究では、健康まちづくりの中で、多くの高齢者が利用する医療施設に着目する。特に、医療施設への来訪トリップに着目し、高齢通院者の交通行動を分析する。医療施設への来訪交通手段や医療施設と同時に利用する施設などを把握することにより、今後の健康まちづくり政策の参考となる。



図-1 北大阪健康医療都市プロジェクトの位置図

2. 健康まちづくりプロジェクトの概要

ここでは、本研究で対象とする健康まちづくりプロジェクトに関して整理する。本研究では、大阪府北摂地域の北大阪健康医療都市（健都）プロジェクトを対象に分析する²。本プロジェクトは、吹田操車場跡地を利用し、国立循環器病研究センターおよび吹田市民病院を核とする「健康・医療のまちづくり」である。図-1にプロジェ

クトの位置図を示す。吹田市民病院は、2018年12月に移転開院している。また、国立循環器病研究センターは2019年6月に移転開院した。この2病院の間には、複合商業施設（ビエラ岸辺健都）があり、スーパーマーケット・ドラッグストア・飲食店・クリニックモール・ビジネスホテルなどが入居している。また、「緑のふれあい

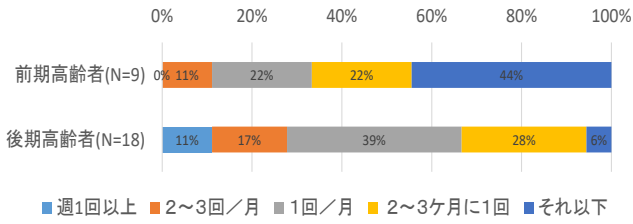


図-4 市民病院への来訪頻度分布

つぎに、図-5に市民病院（健都）への来訪交通手段の集計結果を示す。

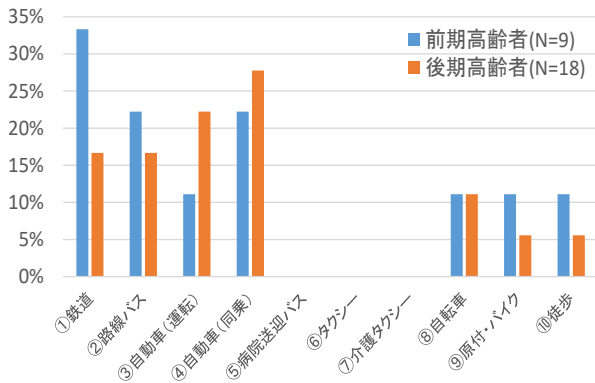


図-5 市民病院（健都）来訪者の交通手段

前期高齢者では鉄道の利用者割合が高く、後期高齢者では自動車（同乗）の割合が高い。また、付き添いなしで自動車を運転して来訪する後期高齢者が多くみられる。市民病院では、大阪メトロ・北大阪急行江坂駅、阪急吹田駅を通る無料の送迎バスを1日6便運行している。しかしながら、今回の回答者では送迎バスの利用者はみられなかった。

つぎに、図-6に移転前の市民病院（片山町）へ通院していた時（利用したことがない場合は片山町へ行くことを想定した）の利用交通手段を示す。

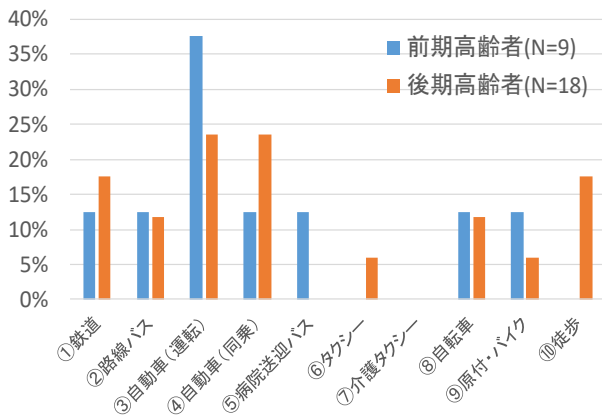


図-6 移転前の市民病院（片山町）来訪者の交通手段

移転前の市民病院では、最寄り駅（JR吹田駅）までの距離は、950m程度である。このため、前期高齢者の鉄道の利用割合は移転後と比較すると少ない。移転前では、前期高齢者は自動車の利用が多かった。全体で11名が交通手段を変更しており、自動車・自転車から鉄道への転換、路線バスから自転車への転換などがみられた。

つぎに、病院の用事終了後の予定を尋ねた。図-7に集計結果を示す。

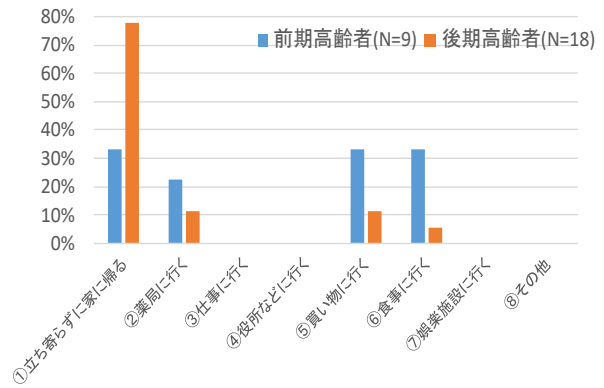


図-7 病院の用事終了後の予定

前期高齢者では、買い物・食事に行く人が比較的多いが、後期高齢者は立ち寄らずに家に帰る割合が高い。

4. 医療施設来訪に関連した健康づくり

つぎに、医療施設への来訪と健康づくりとの関連を分析する。図-8に病院来訪者の滞在時間の分布を示す。

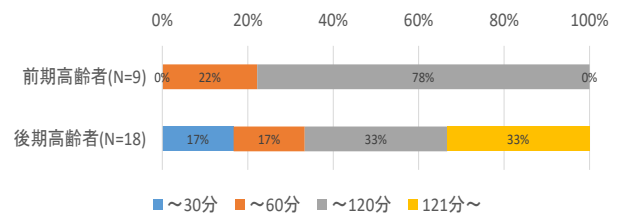


図-8 病院滞在時間分布

前期高齢者は1~2時間の滞在時間の割合が高いが、後期高齢者は2時間を超える滞り手も多い。診察終了後も長く留まる人が見られ、コミュニケーションの場としても使われている。

つぎに、医療施設へ来訪した日と来訪しない日で、どちらの活動量が多いかを尋ねた。図-9に集計結果を示す。病院に来訪した日の活動量が多くなる人、少なくなる人が共に見られた。後期高齢者では、「同じぐらい」の割合が高く、通院による活動量の増加は、あまり見られないことが分かった。

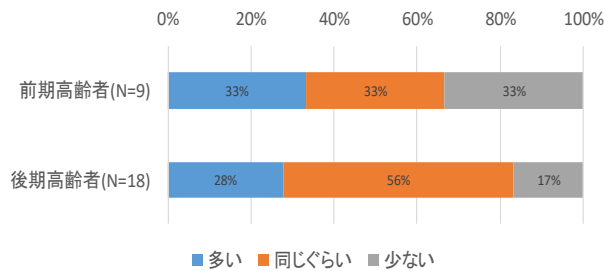


図-9 病院来訪日の活動量の比較

つぎに、健都内の施設で市民病院と合わせて利用したいと思う施設を尋ねた。表-3に集計結果を示す。

表-3 市民病院と合わせて利用したい施設

施設	前期高齢	後期高齢
①健都レールサイド公園	11%	0%
②ビエラ健都	67%	59%
③国立循環器病研究センター病院	22%	6%
④健都イノベーションパーク	0%	0%
⑤遊歩道	0%	6%
⑥明和池公園	0%	0%
⑦その他	11%	6%
ない	11%	29%

前期高齢者・後期高齢者ともに、複合商業施設（②ビエラ健都）の回答が多い。複合商業施設は、市民病院と直結しており、利便性が高いためであると考えられる。他に、国立循環器病研究センター病院などの回答が見られた。また、「ない」の回答は、後期高齢者でやや多い。今回の回答者では、公園・遊歩道の回答は少なかった。

最後に、これからの健康維持のために重要なこと（3項目まで）を尋ねた。表-4に集計結果を示す。

表-4 これからの健康維持のために重要な事項

健康維持のために重要な事項	前期高齢	後期高齢
①睡眠・休養を十分にとる	56%	47%
②食事・栄養に気を配る	78%	47%
③酒やたばこを控える	0%	0%
④定期的に健康診断を受ける	22%	41%
⑤運動やスポーツを行う	44%	35%
⑥知人との交流を行う	22%	12%
⑦雑誌やテレビ等で健康に関する情報を収集する	0%	12%
⑧その他	0%	12%

②食事・栄養、①睡眠・休養、⑤運動・スポーツの割合が高く、多くの人が健康維持のためにこれらの項目が

必要であると考えていることがわかった。また、後期高齢者では、健康診断の受診、雑誌・テレビなどでの情報収集なども重要と考えていることがわかった。

5. おわりに

本研究では、健康都市における市民の日常的健康を支援する市民医療施設に着目して、来訪者の交通行動を分析した。本研究の主要な成果を以下に整理する。

- 1) 市民病院への来訪者は、市内および隣接市の広範囲に広がっていることがわかった。付き添いなしで自動車を運転して来訪する後期高齢者が多くみられた。また、移転前と比較して前期高齢者では、鉄道による来訪が多くみられた。
- 2) 病院での用事終了後は、前期高齢者では、買い物・食事に行く人が比較的多いが、後期高齢者は立ち寄らずに家に帰る割合が高いことがわかった。ただし、後期高齢者は病院内の滞在時間が長く、病院内でコミュニケーションを行っている人が多いと考えられる。
- 3) 医療施設と合わせて利用したいと思う施設として、商業施設が多く挙げられた。対象とした市民病院は、商業施設と隣接しており、鉄道での来訪者は商業施設内を通って病院に行くようになっている。今回の調査では、通院による活動量の増加は、あまり見られなかった。

本研究の実施にあたり、市立吹田市民病院のご協力をいただいた。また、大阪ガスグループ福祉財団の助成をいただいて実施した成果の一部である。ここに記して謝意を示す。

参考文献

- 1) 国土交通省：健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン，http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000055.html (2019年10月1日閲覧)。
- 2) 吹田市・摂津市：「健康・医療」のまちづくり，<https://kento.osaka.jp/> (2019年10月1日閲覧)。
- 3) 大阪ガスグループ福祉財団：大阪ガスグループ福祉財団調査研究報告集，Vol. 32, pp. 81-90, 2019。
- 4) 秋山孝正，井ノ口弘昭：健康まちづくりの都市交通計画に関する交通行動分析，交通学研究，No.59，pp.93-100, 2016。
- 5) 厚生労働省：国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針，http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkouippon21.html (2019年10月1日閲覧)。

(2019. 10. 4 受付)